

巨星・松本文夫先生を偲んで

わが公益社団法人日本化学療法学会の名誉会員であります松本文夫先生は、本年2017年（平成29年）11月6日、かねて療養中のところ、肝細胞癌により享年85歳で逝去されました。

松本先生は県立不動岡高等学校から東京慈恵会医科大学（慈恵医大）に進学し優秀な成績で1958年（昭和33年）に卒業されました。

慈恵医大附属青戸病院（現 葛飾医療センター）で1年間のインターン終了後、1959年第26回医師国家試験に合格されました（医籍登録番号196495号）。

1959年5月創設まもない慈恵医大上田内科教室（教授 上田泰）に入局し、1963年有給助手、1970年講師に昇格、上田教授との出会いがその後の人生において大きな影響を受けることとなりました。上田内科教室の腎臓と感染症の2本の研究テーマの、一方の柱の感染症と化学療法の領域の旗頭として活躍されました。1976年慈恵医大から神奈川県衛生学院附属汐見台病院（汐見台病院）に副院長として派遣され、奉職された23年間、診療、二次救急医療の整備、看護学生の教育実習および神奈川県下の看護師養成、病院管理運営、そして学会活動、研究など多忙な日々を過ごされましたが、診療を休む事は一度もなく、多くの患者から慕われておられました。診療では常に患者の話をよく聞き、丹念に診療されて信頼がとて厚く、いつも予約が一杯でした。当時は抗菌薬の開発が盛んな時期で、松本先生は数々の臨床治験の世話人を引き受けられ、汐見台病院の臨床医および臨床検査技師、薬剤師、看護師などにも実学を提示され、活気ある病院となりました。

臨床治験のほかにEpidemic therapyと*Helicobacter pylori*感染症を研究テーマとし、各診療科との連携を保ち、職員にも学会発表の機会をたくさん与えて、医師以外の医療に携わる様々な職種の育成にもご尽力されました。後に1987年汐見台病院院長となり1999年3月に退官、4月より名誉院長になりました。さらに2003年には神奈川県社会保険診療報酬支払基金の審査委員長にも就任されました。

学術的なことのみならず、病院経営者として神奈川県医師会病院として病院連携からみた公営民営医師会病院のあり方などについての病院改革に積極的に取り組みました。地域医師会員の皆様方との合同症例検討会を定期的で開催し、病院相互のレベルアップと紹介の推進を図り地域医療の開放型病院として中核病院へと成長させ、また神奈川県エイズ治療拠点病院に選定されました。大学人として教えを受けてきた自分ですが、市中病院（汐見台病院）を足場にしての学会活動や研究の幅を広げた松本先生のご活躍は称賛に値します。

略歴

【学歴・職歴】

1958年（昭和33年）3月	東京慈恵会医科大学卒業
1959年 4月	東京慈恵会医科大学 上田内科教室入局
1970年 3月	〃 講師
1973年 2月	国立松本病院 出張
1973年10月	〃 帰室
1976年 5月	上田内科から第二内科に名称変更
1976年 7月	神奈川県衛生看護専門学校附属汐見台病院（副院長）に派遣（非常勤講師）
1979年 4月	東京慈恵会医科大学 客員教授委嘱
1988年 4月	神奈川県衛生看護専門学校附属汐見台病院 院長
1999年（平成11年）3月	〃 退任
1999年（平成11年）4月	〃 名誉院長
2003年 6月	神奈川県社会保険診療報酬支払基金 審査委員長

【受賞歴】

1994年（平成6年）6月	神奈川県保健衛生表彰
1997年10月	厚生労働大臣表彰（支払基金関係功労者として）

【主催された主な学術集会】

- 第35回日本化学療法学会東日本支部総会（1988年）
- 第9回日本環境感染学会総会（1994年）
- 第43回日本化学療法学会総会（1995年）



故 松本文夫先生

松本先生、永きに渡りご指導をいただき、誠にありがとうございました。先生に何度も何度も原稿に手を入れていただき、次はどこにつながるのだと苦労したことが懐かしく思い出されます。おかげで少しは文章を書けるようになりました。先生の教育を受けた者として、大きな夢と誇りを持って生きていきます。どうぞ、ごゆっくりお休みください。

公益社団法人日本化学療法学会 名誉会員 柴 孝也
(東京慈恵会医科大学客員教授)